

## 2014 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	立岩 真也

### I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター5か年計画に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

**成果の内容：**2014年度は、研究センター5か年計画に則り、次の3点について重点的な活動をおこなった。(1) 研究活動アウトリーチを強化し、産・民・官との連携や社会貢献活動に取り組んだ。(2) 若手研究者への新たな支援活動として、国際的な研究への支援を強化した。(3) 国外の研究者・研究機関との研究推進・研究協力をおこなった。

上記3点に関する重点的な活動に加えて、定期刊行物である雑誌『生存学』第8号(生活書院発行)、多言語ウェブジャーナル *Ars Vivendi Journal* No.7、『生存学研究センター報告』第23号を刊行した。また、ウェブサイトやSNSを通じた成果・活動報告について、日本語・英語・コリア語の3つのfacebookページを新たに開設し、これまでのセンターHP、arsvi.com、twitter、メールマガジン(日本語12号、英語16号、韓国語14号)とともに成果発信につとめた。それぞれの研究は、本センターが掲げる4つの課題群と関連して推進した。

	国際研究の推進	国内シンポジウム等の開催	刊行物・DB構築
I. 生存の現代史	障害学国際セミナー 2014 (於：ソウル。韓国・中国と連携。)、Workshop with Dr. Simon Prideaux (リーズ大学)	ジェンダー論セミナー(4回)、精神科医 高岡健氏に聞く、「境界を揺るがす——映画『トークバック』上映会」、「精神分析と倫理」研究会(3回)、映画『基地の町に生きる』上映会×トーク	立岩真也『自閉症連続体の時代』(みすず書房)、立岩真也『身体の現代・集積(準)』(Kyoto Books)、集積冊子資料のデジタル化、ウェブサイト arsvi.com の充実
II. 生存のエスノグラフィー	国際セミナー「ナラティブ心理学と教育」(2回)、国際シンポジウム「《敗戦/引揚げ/性暴力》『竹林はるか遠く』ブームを問い直す」	アフリカセミナー(4回)、研究会「文学と盲目性」、研究会「ブルーナーと人間をみる眼」、研究会「SFは生存をどう描いてきたか」	新山智基編『生存学研究センター報告 23 アフリカの病・医療・障害の現場から』
III. 生存をめぐる制度・政策	国際学術企画「生存学の社会学」、国際研究ワークショップ「健康と平等の規範理論」、研究会「Population Ethics をめぐって」	連続セミナー「障害/社会」(5回)、研究会「デモクラシーと福祉の規範理論」、研究会「社会学と規範理論のあいだ」	渡辺克典編『インクルーシブ社会研究 5』、雑誌『生存学』第8号(特集「看護」「吃音/ろう」)
IV. 生存をめぐる科学・技術	国際ワークショップ「生命倫理の歴史を語ること、その陥穽」	『卵子提供——美談の裏側』上映会、研究会「身体とテクノロジー」、UTCP-L2 合同シンポジウム「出生をめぐる知/技術の編成」、研究会「出生をめぐる倫理と里親養育」	<i>Ars Vivendi Journal</i> No.7 Special Issue: Radiation Risk, Rationality, and Indeterminacy

**意義と重要性：**(1) 東京大学等の他大学研究機関との連携に加え、企業・自治体・国際機関からの協力要請があるなど、社会活動アウトリーチにもとづく社会実践・貢献活動を推進することができた。(2) 若手研究者へのプロジェクト型研究支援・国際化推進に加え、公開研究会・合評会・シンポジウムの開催、刊行物やウェブページを通じた成果発信には学内外の若手研究者が積極的に参加し、グローバル COE の理念とされた若手研究者養成を着実に継承する教育・研究活動の融合に取り組むことができた。(3) 国際連携については、東アジアにおいてこれまでの韓国との関係を継続しつつ、連続セミナー「障害/社会」や障害学国際セミナーにて中国の団体と連携した。また、韓国については、3大学の研究機関と協定を締結した。また、欧米圏の研究者とのシンポジウム等を通じた研究交流、アフリカについても定期的に公開セミナーを開催し、学内・学外の専門家・研究者とのさらなる関係構築を果たすことができた。(4) 昨年度に引き続き、マスメディアの取材(例：『日経新聞』7月31日付「知の明日を築く」)もあるなど、本研究センターの研究理念や実践的な取り組み、本学の展開する研究活動の先進性に沿った社会貢献をおこなうことができた。

## II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2015年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
センター長	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授
運営委員	天田 城介	先端総合学術研究科	教授
	井上 彰	先端総合学術研究科	准教授
	上野 千鶴子	先端総合学術研究科	教授
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授
	齋藤 龍一郎	衣笠総合研究機構	教授
	サトウタツヤ	文学部	教授
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	准教授
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	教授
	中村 正	産業社会学部	教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授
	村上 潔	衣笠総合研究機構	准教授
	望月 昭	文学部	教授
	望月 茂徳	映像学部	准教授
	やまだようこ	衣笠総合研究機構	教授
渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授	
渡辺 公三	先端総合学術研究科	教授	
学内の若手研究者 専門研究員・研究員	郭 貞蘭	衣笠総合研究機構(生存学)	専門研究員
	橋口 昌治	衣笠総合研究機構(生存学)	専門研究員
	片岡 稔	衣笠総合研究機構(生存学)	研究員
	櫻井 悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員
	角崎 洋平	衣笠総合研究機構	専門研究員
	篠木 涼	衣笠総合研究機構	専門研究員
	藤原 信行	衣笠総合研究機構	専門研究員
	永田 貴聖	衣笠総合研究機構	専門研究員
	久保 忠行	衣笠総合研究機構	専門研究員
	田中 壮泰	衣笠総合研究機構	専門研究員
	吉田 一史美	衣笠総合研究機構	専門研究員
	由井 秀樹	衣笠総合研究機構	専門研究員
	福田 茉莉	衣笠総合研究機構	専門研究員
	Emanuela Costa	衣笠総合研究機構	外国人特別研究員

	木戸 彩恵	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
	滑田 明暢	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
	植村 要	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
博士後期課程院生・一貫制博士課程 3 回生以上在籍院生	安 孝淑	先端総合学術研究科	院生
	谷村 ひとみ	先端総合学術研究科	院生
	泉谷 瞬	文学研究科	院生
	神崎 真実	文学研究科	院生
	権藤 眞由美	先端総合学術研究	院生
	梁 説	先端総合学術研究科	院生
	北見 由美	先端総合学術研究科	院生
	岩田 京子	先端総合学術研究科	院生
	永田 美江子	先端総合学術研究科	院生
	児嶋 きよみ	先端総合学術研究科	院生
	秋吉 大輔	文学研究科	院生
	番匠 健一	先端総合学術研究科	院生
	濱本 真男	先端総合学術研究科	院生
	モリカイネイ	先端総合学術研究科	院生
	林 徳 栄	先端総合学術研究科	院生
	梁 陽 日	先端総合学術研究科	院生
	中村 雅也	先端総合学術研究科	院生
	中嶌 清美	先端総合学術研究科	院生
	吉田 幸恵	先端総合学術研究科	院生
	李 旭	先端総合学術研究科	院生
	各務 勝博	先端総合学術研究科	院生
	小辻 寿規	先端総合学術研究科	院生
	小林 宗之	先端総合学術研究科	院生
	杉島 優子	先端総合学術研究科	院生
	徳山 貴子	先端総合学術研究科	院生
	中西 京子	先端総合学術研究科	院生
	西沢 いづみ	先端総合学術研究科	院生
	新田 千春	先端総合学術研究科	院生
畑野 相子	先端総合学術研究科	院生	
森合 真一	先端総合学術研究科	院生	
矢野 亮	先端総合学術研究科	院生	
山田 由紀	先端総合学術研究科	院生	
貞岡 美伸	先端総合学術研究科	院生	

	坂井 めぐみ	先端総合学術研究科	院生
	瀧川 由美子	先端総合学術研究科	院生
	桐原 尚之	先端総合学術研究科	院生
	白田 幸治	先端総合学術研究科	院生
	三輪 佳子	先端総合学術研究科	院生
	栄 セツコ	先端総合学術研究科	院生
	姜 旻 廷	先端総合学術研究科	院生
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	伊藤 岳史	先端総合学術研究科	院生
	中村 亮太	先端総合学術研究科	院生
	荒木 健哉	先端総合学術研究科	院生
	佐草 智久	先端総合学術研究科	院生
	青木 秀光	日本学術振興会 (立命館大学)	特別研究員(DC3)
	中本 友梨	文学研究科	院生
	金 友子	言語教育センター	嘱託講師
	安田 裕子	立命館グローバル・イノベーション研究 機構	准教授
	高橋 慎一	文学部	非常勤講師
	鳥木 圭太	文学部	非常勤講師
	小門 穂	産業社会学部	非常勤講師
	堀江 有里	国際関係研究科	非常勤講師
	松田 有紀子	先端総合学術研究科	研究指導助手
	北村健太郎	先端総合学術研究科	非常勤講師
客員協力研究員	有馬 斉	横浜市立大学国際総合科学	准教授
	坂本 徳仁	東京理科大学理工学部	講師
	青木 慎太郎	フリーランス講師	自営
	太田 啓子	社会福祉法人障害者・スポーツ協会	職業指導員
	高田 一樹	南山大学大学院ビジネス研究科	准教授
	打浪 文子	淑徳短期大学子ども学科	特任講師
	山本 崇記	公益財団法人世界人権問題研究 センター	専任研究員
	加藤 有希子	埼玉大学教育機構教育企画室	准教授
	北村 健太郎	先端総合学術研究科	研究指導助手
	鄭 喜慶	韓国京畿福祉財団	責任研究員
	中倉 智徳	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	新山 智基	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	横田 陽子	先端総合学術研究科	非常勤講師
	能勢 桂介		
	牧 昌子	京都府国民健康保険審査会	委員

	浦田 悠	京都大学大学院	学術支援研究員
	大野 光明	大阪大学グローバルコラボレーションセンター	特任助教
	河口 尚子	東京福祉大学	非常勤講師
	川端 美季	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	小林 勇人	日本福祉大学	准教授
	定藤 邦子	定藤記念福祉研究会	世話人
	渋谷 光美	羽衣国際大学人間生活学部	准教授
	利光 恵子	としまつ薬局	自営
	浜田 明範	国立民族学博物館先端人類科学研究部	機関研究員
	堀田 義太郎	東京理科大学理工学部	講師
	安田 真之	京都産業大学ボランティアセンター	特定職員
	安原 荘一	全国「精神病」者集団	メンバー
	小西 真理子	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	櫻井 浩子	国立情報学研究所先端ソフトウェア工学・国際研究センター	特任准教授
	青木 千帆子	内閣府本府	上席政策調査員
	箱田 徹	京都大学人文科学研究所	研究員
	一宮 茂子		
	萩原 三義	相生鍼灸／京都大学医学部附属病院	自営／技術補佐員
	山本 由美子	東海学院大学	専任教員
	安部 彰	甲南大学	非常勤講師
	ワフユディ 理沙	東大阪大学短期大学部	専任講師
	川口 有美子	有限会社ケアサポートモモ	代表取締役
	有吉 玲子	松島医院	看護師長
	田中 慶子	広島国際学院大学	非常勤講師
	長谷川 唯	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	玉井 隆	東京大学大学院総合文化研究科／日本学術振興会	院生／特別研究員(DC1)
	金 政玉	明石市福祉部福祉総務課	課長
	番匠 健一		
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	矢田部 俊介	京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター	研究員
	菅原 祥	京都大学学際融合教育研究推進センター	研究員
	安井 大輔	日本学術振興会 (京都大学)	特別研究員 (PD)

	友田 義行	信州大学	助教
	佐々木 祐	神戸大学大学院人文学研究科	准教授
	佐々木 薫	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科	非常勤講師
研究所・センター構成員 計 143 名 (うち学内の若手研究者 計 57 名)			

### III. 研究業績

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2015年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩真也	『「存在を肯定する」作業療法へのまなざし - なぜ「作業は人を元気にする!」のか』「存在の肯定、の手前で」	分担執筆	2014年6月	三輪書店	田島明子編著	25-69
2	立岩真也	自閉症連続体の時代	単著	2014年8月	みずぎ書房		
3	井上彰	「ハイエク立法理論の再検討—立法過程の政治哲学としての可能性—」『立法学の哲学的再編(立法学のフロンティア 第I巻)』	単著	2014年7月	ナカニシヤ出版	井上達夫編	169-191
4	井上彰	『政治理論とは何か』	共編著	2014年10月	風行社	田村哲樹編	1-45
5	井上彰	「平等—なぜ平等は基本的な価値といえるのか—」『現代の経済思想』	単著	2014年10月	勁草書房	橋本努編	173-201
6	上野千鶴子	ケアのカリスマたち—看取りを支えるプロフェッショナル	単著	2015年3月	亜紀書房		
7	上野千鶴子	妹たちへ 2 生き方に迷うあなたへ、今伝えたいこと(「他人の評価より、自分が面白いと思うことを究める」)	共著	2014年6月	日本経済新聞社	日経WOMAN編	68-85
8	上野千鶴子	現代のナショナリズムを考える—国はなくとも人は生きる(「『ナショナリズムとジェンダー新版』を読み解く対話的試み」)	共著	2014年10月	一般社団法人市民の学習・活動・交流センター	太田昌国ほか	54-67
9	上野千鶴子	乳房の文化論(「感じる乳房—誰のものか?」)	共著	2014年11月	淡交社	乳房文化研究会編	41-66
10	上野千鶴子	老い方上手(「第3章 在宅ひとり死は可能か?」)	共著	2014年12月	WAVE出版	樋口恵子・大熊由紀子・会田薫・井上治代	87-134
11	上野千鶴子	“元祖”が語る自分史のすべて(「第2部 自分史とは何か—対談:色川大吉・上野千鶴子」)	共著	2014年12月	河出書房	色川大吉	100-169
12	上野千鶴子	何度でも言う がんとは決して闘うな(「がんと共に生きる—対談:上野千鶴子・近藤誠」)	共著	2015年1月	文藝春秋	近藤誠	81-97
13	上野千鶴子	新しい男女共同参画社会を拓く—かながわ女性センター32年の航跡と提言(「女性センターに未来はあるか?」)	共著	2015年2月	かながわ女性センター	かながわ女性センター編	51-54
14	大谷いづみ	「安楽死・尊厳死—少子高齢社会における「死に方/死なせ方」の政治学」日本老年行動科学会監修・大川一郎編集代表『高齢者のこころとからだ事典』	分担執筆	2014年9月	中央法規出版		542-543
15	小川さやか	『国際リユースと発展途上国』	共著	2014年10月	アジア経済研究所	児島道一、福西隆弘他	64-97
16	小泉義之	ドゥルーズと狂気	単著	2014年7月	河出書房新社		
17	サトウタツヤ	心理学スタンダード—学問する楽しさを知る	編著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明(編)	
18	サトウタツヤ	司法臨床としての情状心理鑑定	分担執筆	2014年8月	日弁連研究叢書 現代	サトウタツヤ	909-927

					法律実務の諸問題 平成25年度研修版		
19	サトウタツヤ	傷痍軍人・リハビリテーション関係資料集成 第1-2巻(制度・施策/医療・教育編)	共編著	2014年12月	六花出版	サトウタツヤ, 郡司淳 編	
20	サトウタツヤ	ワードマップ TEA 理論編(副題: 複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ)	共編著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ(編)	179
21	サトウタツヤ	ワードマップ TEA 実践編(副題: 複線径路等至性アプローチを活用する)	共編著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ	246
22	千葉雅也	ずるずる、ラーメン		2014年6月	河出書房新社	河出書房新社編	
23	千葉雅也	別のしかたでーウィッカー哲学		2014年7月	河出書房新社		
24	中村正	離婚紛争の合意による解決の支援と子どもの意思の尊重	分担執筆	2014年10月	日本加除出版	二宮周平ほか	120-147
25	西成彦	バイリンガルな夢と憂鬱	単著	2014年11月	人文書院		1-275
26	Paul Dumouchel	The Ambivalence of Scarcity and other essays	単著	2014年	East Lansing: Michigan State University Press		
27	望月昭	心理学スタンダード: 学問する楽しさを知る	分担執筆	2014年4月	ミネルヴァ書房		31-45
28	渡辺克典	愛知の障害者運動——実践者たちが語る	共著	2015年3月	現代書館	障害学研究会中部部会編	
29	渡辺克典	インクルーシブ社会研究 5 生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害/社会」	編著	2015年3月	立命館大学人間科学研究科		
30	堀田義太郎	政治学大図鑑	共著(翻訳の監修)	2014年8月	三省堂	ポール・ケリー著 豊島美和訳	全翻訳の監修
31	櫻井浩子	18トリバー: 子どもへのよりよい医療と家族支援をめざして	共著	2014年11月	メディカ出版	橋本洋子、古庄知己	全体編集他
32	渋谷光美	未来につなぐ療育・介護労働	共著	2014年9月	クリエイツかもがわ	北垣智基、鴻上圭太、藤本文朗	介護労働のあゆみ、pp. 170-181
33	番匠健一	『戦後史再考』	共著	2014年10月	平凡社	西川長夫、大野光明	
34	浜田明範	『薬剤と健康保険の人類学: ガーナ南部における生物医療をめぐる』	単著	2015年2月	風響社		
35	新山智基	顧みられない熱帯病と国際協力: ブルリ潰瘍支援における小規模NGOのアプローチ	単著	2014年9月	学文社		
36	新山智基	第1部 各国社会福祉の現状: トーゴ共和国	共著	2014年11月	世界の社会福祉年鑑 2014 旬報社	宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編	pp. 407-425
37	新山智基	アフリカ医療・感染症レポート: 三大感染症・顧みられない熱帯病・エボラ出血熱を知る	共著	2015年3月	生存学研究センター報告 Vol. 23 立命館大学生存学研究センター	新山智基編	pp. 68-97
38	萩原三義	京大ウエルネス研究会 10周年記念誌	編著	2015年3月	京大ウエルネス研究会 10周年記念誌編集プロジェクト	我部山キヨ子他	pp. 27
39	安部彰	"Gesellschaftsphilosophie" in BEGRIFF UND BILD DER MODERNEN JAPANISCHEN PHILOSOPHIE	共著	April 2014	Stuttgart, Frommann-Holzboog,	Raji C. Steineck, Elena Louisa Lange, Paulus	pp. 279-298

						Kaufmann, Ralf Müller, Fabian Schäfer, Toda Takefumi, Uchida Hiroaki, Kajitani Shinji, Matsumoto Keijirō, Simone Müller, Yamaguchi Shō, , Abe Hiroshi】	
40	Yasuda, Y.	‘From Describing to Reconstructing Life Trajectories: How the TEA (Trajectory Equifinality Approach) explicates context-dependent human phenomena’ ( “Culture Psychology and its Future: Complementarity in a new key” )	共著	2014年4月	Information Age Publishing	Sato, T., Kanzaki, M., & Valsiner, J. Wagoner B., Chaudhary, N. & Hviid, P. (Eds.)	93-104
41	安田裕子	「主題と変奏—臨床便り TEA とコンポジションワーク」 (『特集 シリーズ・今これからの心理職① これだけは知っておきたい 医療・保健領域で働く心理職のスタンダード』)	単著	2015年1月	金剛出版、臨床心理学、15・1	下山晴彦・熊野宏昭・中嶋義文・松澤広和 (編)	140
42	安田裕子	「等至性と複線径路—両極化した等至点と ZOF (ゾーン・オブ・ファイナリティ) へ」 (『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	30-34
43	安田裕子	「分岐点と必須通過点—諸力 (SD と SG) のせめぎあい」 (『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	35-40
44	安田裕子	「未来と未来展望—偶有性を取り込み、価値が変容する経験として」 (『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	41-45
45	安田裕子	「画期をなすこと—研究者の視点と所在」 (『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	46-51
46	安田裕子	「促進的記号と文化—発生の三層モデルで変容・維持を理解する (その1)」 (『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	27-32
47	安田裕子	「行動と価値・信念—発生の三層モデルで変容・維持を理解する (その2)」 (『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	33-40
48	安田裕子	「複線性と多様性を描く地図づくり—TEA による分析の流れ (その1)」 (『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	41-46
49	安田裕子	「径路の可視化—TEA による分析の流れ (その2)」 (『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	47-51
50	安田裕子	「緊張状態のあぶりだし—TEA による分析の流れ (その3)」 (『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』)	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ (編)	52-59

51	安田裕子	『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』	共編著	2015年3月	新曜社	滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ	総200頁
52	安田裕子	『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』	共編著	2015年3月	新曜社	滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ	総272頁

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩真也	生の現代のために・2	単著	2014年4月	現代思想(42巻6号)		8-19	
2	立岩真也	私の筋が通らない、それはやらないと(大野萌子へのインタビュー)	その他	2014年5月	現代思想(42巻8号)		192-206	
3	立岩真也	「精神病」者集団、差別に抗する現代史(山本眞理へのインタビュー)	その他	2014年5月	現代思想(42巻8号)		30-49	
4	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 2	単著	2014年5月	現代思想(42巻8号)		8-21	
5	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 3	単著	2014年6月	現代思想(42巻9号)		8-19	
6	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 4	単著	2014年7月	現代思想(42巻10号)		8-19	
7	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 5	単著	2014年8月	現代思想(42巻12号)		8-20	
8	立岩真也	わらじ医者はわらじも脱ぎ捨て——「民主的医療」現代史(早川一光へのインタビュー)	その他	2014年9月	現代思想(42巻13号)		37-59	
9	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 6	単著	2014年9月	現代思想(42巻13号)		8-23	
10	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 7	単著	2014年10月	現代思想(42巻14号)		8-19	
11	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 8	単著	2014年11月	現代思想(42巻15号)		8-19	
12	井上彰	分析的政治哲学とロールズ『正義論』	単著	2014年5月	『政治思想研究』(14号)		6-32	
13	上野千鶴子	女性『保守系』文化人の指定席	単著	2014年6月	『文藝春秋』2014年6月号		349-350	
14	上野千鶴子	安倍政権の女性活用は使えない女は使い捨ての政策だ	単著	2014年8月	『エコノミスト』92-35(2014年8月12/19合併号)		14	
15	上野千鶴子	介護保険以降のワーカーズ・コレクティブ——社会的文脈の変容とそのインパクト	単著	2014年10月	『社会運動』414(2014年10月号)		91-107	
16	上野千鶴子	『報道』検証より「慰安婦」検証を	単著	2014年10月	『週刊金曜日』2014年10月17日号		12-13	
17	上野千鶴子	追悼・土井たか子さん——歴史に『イフ』があったなら	単著	2014年11月	『婦人公論』2014年11月7日号		54-55	
18	上野千鶴子	男女共同参画は学問を変えるか?	単著	2014年12月	『学術の動向』19-12(2014年12月号)			
19	上野千鶴子	安倍政権の女性施策は勘違いばかり——女性に不利な働き方のルールを変更せよ	単著	2014年12月	『Journalism』295(2014年12月号)		6-14	
20	大谷いづみ	死に至る憐れみ——啓蒙・抵抗・応答の一九七〇年代	単著	2014年9月	『現代思想』(42巻13号)		178-197	
21	小川さやか	消費と祭り	単著	2014年5月	京都新聞「現代のことば」(2014/5/19夕刊)			
22	小川さやか	2014年上半期の収穫	単著	2014年7月	週刊読書人(7月25日号)			
23	小川さやか	日本の中古品は中国の新品より売れる	単著	2014年8月	Wedge(2014年9月号)			
24	小川さやか	グローバルな消費のモードと接続するローカルな生産・流通モード	単著	2014年10月	民博通信(146号)		22-23	
25	小川さやか	動く人 都市の不確実性に身をゆだねる	単著	2014年11月	at プラス(22巻)		50-69	
26	小川さやか	第3章タンザニアにおける衣	単著	2014年12月	小島道一編『国際リユースと		36-61	

		料品の消費行動に関する考察 —中古衣料品と中国・東南ア ジア製衣料品の供給システム の違いに着目して			発展途上国』調査研究報告書			
27	小川さやか	Living for Today の人類学 第1回わたしたちは「怠け者」 に憧れている？	単著	2014年12月	小説宝石(1巻)		76-83	
28	小川さやか	Living for Today の人類学 第2回最小限の努力で生きる 「情の経済」社会	単著	2015年1月	小説宝石(2巻)		100-107	
29	小川さやか	Living for Today の人類学 第3回「カンザニア都市住民の予 定表のない生き方」	単著	2015年2月	小説宝石(3巻)		76-83	
30	小川さやか	Living for Today の人類学 第四回「中国とアフリカにみる「下 からのグローバル化」	単著	2015年3月	小説宝石(4巻)		100-107	
31	小泉義之	人格障害のスペクトラム化	単著	2014年5月	『現代思想』42(8)		144-163	
32	小泉義之	暴力の性化と享楽化の此方 (彼方)へ	単著	2014年9月	『ユリイカ』46(12)		171-176	
33	小泉義之	物化せよ、存在者化せよ	単著	2015年1月	『現代思想』43(1)		46-57	
34	小泉義之	No Sex, No Future	単著	2015年1月	『ユリイカ』46(16)		179-186	
35	小泉義之	狂気の真理への勇氣	単著	2015年2月	『HAPAX』vol.3		17-31	
36	サトウタツ ヤ	From Describing to Reconstructing Life Trajectories:How the TEA (Trajectory Equifinality Approach) explicates context-dependent human phenomena	共著	2014年4月	Culture Psychology and its Future: Complementarity in a new key	Yasuda, Y., Kanzaki, M., & Valsiner, J.	93-104	
37	サトウタツ ヤ	被告人の国籍が裁判員の量刑 判断に与える影響	共著	2014年7月	立命館人間科学研究(30巻)	サトウタツ ヤ	45-63	
38	サトウタツ ヤ	ひらめき☆ときめきサイエン ス「模擬法廷に来て裁判に参 加してみましよう」の実践お よび論考	共著	2014年7月	立命館人間科学研究(30巻)	山崎優子・ 稲葉光行・ 斎藤進也・ 徳永留美・ 安田裕子・ 上村晃弘・ 木戸彩恵・ 若林宏輔・ 福田茉莉・ 滑田明暢・ 山田早紀・ 川本静香・ 中妻拓也・ 春日秀朗・ 神崎真実・ 中田友貴・ 山口慶江	87-96	
39	サトウタツ ヤ	うつ病アナログ群の特徴につ いて：抑うつ連続性検討の 観点から	共著	2014年8月	パーソナリティ研究(23巻)	川本静香・ 渡邊卓也・ 小杉考司・ 松尾幸治・ 渡邊義文	1-12	
40	サトウタツ ヤ	傷痍軍人職業顧問としての心 理学者	単著	2014年12月	編集復刻版『傷痍軍人・リハ ビリテーション関係資料集 成』(1巻)		3-10	
41	サトウタツ ヤ	サイエンスフェにおけるファシリテーターの 集団維持機能	共著	2014年	実験社会心理学研究(54巻1 号)	日高友郎・ 水月昭道	11-24	
42	サトウタツ ヤ	親の期待認知が大学生の自己 抑制型行動特性及び生活満足 感へ与える影響	共著	2014年	発達心理学研究(25巻2号)	春日秀朗・ 宇都宮 博	121-132	

43	サトウタツヤ	通学型の通信制高校において教員は生徒指導をどのように成り立たせているのか——重要な場としての職員室に着目して	共著	2015年3月	質的心理学研究(14号)	神崎真実	19-37	
44	サトウタツヤ	慢性の病いをもつ研究者が主宰する病者の集いの場で生成される意味	共著	2015年3月	質的心理学研究(14号)	赤阪麻由	55-74	
45	千葉雅也	〔書評〕 ナタリー・サルトウー＝ラジュ『借りの哲学』		2014年4月	共同通信			
46	千葉雅也	〔被取材〕 代ゼミジャーナル		2014年4月	代々木ゼミナール			
47	千葉雅也	〔被取材〕 わかりやすさを捨てる		2014年4月	AERA			
48	千葉雅也	〔被取材〕		2014年4月	BRUTUS			
49	千葉雅也	〔批評〕 タナトスのラーメンーきじょっぱいということ		2014年4月	群像(69巻4号)		122-123	
50	千葉雅也	〔討議〕 『ドゥルーズの哲学原理』と『動きすぎてはいけない』		2014年4月	表象(8巻)	國分功一郎, 佐藤 嘉幸, 堀 千晶		
51	千葉雅也	〔批評〕 批判から遠く離れてー2010年代のツイッター		2014年6月	一冊の本(19巻6号)		43-45	
52	千葉雅也	〔討議〕 イケメノロジーのハードコア		2014年7月	ユリイカ(46巻10号)	柴田 英里, 星野 太	10-25	
53	千葉雅也	〔批評〕 ｲｸﾙであると言われるということ		2014年7月	ユリイカ(46巻10号)		8-9	
54	千葉雅也	〔書評〕 ティム・インゴルド『ラインズー線の文化史』		2014年7月	日本経済新聞 (2014年7月13日号)			
55	千葉雅也	〔被取材〕 著者に会いたい: 『別のしかたでーツイッター哲学』		2014年7月	朝日新聞 (2014年7月27日号)		13	
56	千葉雅也	〔対談〕 文壇アウトローズの世相放談「これでいいのだ!」		2014年7月	SPA! (2014年7月15日号) (63巻24号)	福田 和也	128-131	
57	千葉雅也	〔対談〕 文壇アウトローズの世相放談「これでいいのだ!」		2014年7月	SPA! (2014年7月1-8日号) (63巻22号)	福田 和也	140-143	
58	千葉雅也	〔被取材〕 この人のスケジュール表		2014年8月	週刊文春(2014年8月28号) (56巻33号)		68	
59	千葉雅也	〔被取材〕 著者来店: 『別のしかたでーツイッター哲学』		2014年9月	読売新聞 (2014年9月7日)		10	
60	千葉雅也	〔被取材〕 年収400万円でも幸せに生きる方法とは?		2014年9月	SPA! (2014年9月16-23日号)		45	
61	千葉雅也	〔被取材〕		2014年9月	anan			
62	千葉雅也	言語、形骸、倒錯ー松浦寿輝『明治の表象空間』について		2014年9月	新潮(111巻9号)		226-230	
63	千葉雅也	〔被取材〕 スルする力		2014年10月	朝日新聞(2014年10月7日)			
64	千葉雅也	〔被取材〕 イケメンブームで男性は「見られる者」になった		2015年1月	PRESIDENT (2015年1月12日号) (53巻1号)		97	
65	千葉雅也	〔インタビュー〕 思弁的実在論と新しい唯物論		2015年1月	現代思想(43巻1号)	聞き手: 岡嶋隆佑)	70-88	
66	千葉雅也	〔被取材〕 均質化するファッション、30代研究者、語り合う		2015年1月	朝日新聞東京版 (2015年1月8日夕刊)	千葉 雅也		
67	千葉雅也	〔被取材〕 哲学者の夢 (特集「初夢 BOOK2015」内)		2015年1月	BRUTUS (2015年2月1日号) (36巻2号)	千葉 雅也	72	
68	中村正	臨床社会学の方法 (5) 日常行動理論	単著	2014年4月	対人援助学マガジン(5巻1号)		19-28	
69	中村正	男性性・男性問題をめぐる臨床社会学-親密な関係性研究に焦点づけて-	単著	2014年6月	立命館産業社会論集(50巻1号)		73-95	
70	中村正	臨床社会学の方法 (6) 共軛関係	単著	2014年9月	対人援助学マガジン(5巻2号)		19-28	

71	中村正	臨床社会学の方法(7) 対人援助と民主主義	単著	2014年12月	対人援助学マガジン(第5巻第3号)		19-31	
72	西成彦	移動文学/比較文学者にとって「移動」とは何か	単著	2014年6月	跨境(創刊号)		12-15	
73	西成彦	在日朝鮮人作家の「母語」問題—李恢成を中心に	単著	2014年8月	比較文学研究(99号)			
74	Paul Dumouchel	Artificial Empathy an Interdisciplinary Investigation	共著	2015年	International Journal of Social Robotics 7-1	L. Damiano, H. Lehmann	3-5	
75	Paul Dumouchel	Towards Human-Robots Affective Co-evolution	共著	2015年	International Journal of Social Robotics 7-1	L. Damiano, H. Lehmann	7-18	
76	松原洋子	アクセシブルな電子図書館と読書困難な学生の支援-日本における大学図書館サービスの課題と展望	単著	2015年2月	立命館人間科学研究(31号)		65-73	
77	松原洋子	障害者差別解消法の高高等教育機関における障害学生支援への影響	単著	2015年3月	大学図書館問題研究会誌(39号)		3-10,25-31	
78	村上潔	京都の女性運動と「文化」第1回(全3回):序論—女のスペース〈シャンバラ〉の活動から	単著	2014年5月	Webマガジン『AMeeT』(一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団)2014年5月5日更新			無
79	村上潔	《書評》原克『OL誕生物語—タビタたちの憂愁』	単著	2014年5月	『週刊読書人』3038(2014-05-09):		6面	無
80	村上潔	京都の女性運動と「文化」第2回(全3回)—〈シャンバラ〉以後、1980年代のリップ運動	単著	2014年7月	Webマガジン『AMeeT』(一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団)2014年7月8日更新			無
81	村上潔	京都の女性運動と「文化」第3回(全3回)—1990年代、リップとして生き続けることの模索	単著	2014年9月	Webマガジン『AMeeT』(一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団)2014年9月26日更新			無
82	村上潔	特集解説:なぜいま「クエティヴ母」なのか	単著	2015年3月	『生存学 Vol.8』		208-212	無
83	村上潔	(座談会)母への抑圧/母からの創造—クエティヴ母の条件	共著	2015年3月	『生存学 Vol.8』	堀越英美・野中モモ	214-243	無
84	渡辺克典	障害学と障害者運動の研究動向	単著	2014年7月	保健医療社会学論集(25巻1号)			
85	渡辺克典	あいまいな吃音の諸相	単著	2015年3月	生存学(8巻)			
86	箱田徹	挑戦する主体は恐れぬ—フーコーと新自由主義、反知性主義	単著	2015年2月	現代思想(第43巻第3号)		209-221	査読無
87	箱田徹	Bodies and Pleasures in the Happy Limbo of a Non-identity: Foucault against Butler on Herculine Barbin	単著	2015年3月	Zinbun 45		91-108	査読有
88	堀田義太郎	科学技術と哲学・倫理学	単著	2014年5月	東京理科大学、科学フォーラム、31巻・5号		22-25頁	無
89	堀田義太郎	(書評)人はなぜ介護者になるのか(『福祉と贈与—全身性障害者・新田勲とその介護者たち』深田耕一郎著)	単著	2014年5月	生活書院、支援。4巻		292-302頁	無
90	堀田義太郎	哲学・倫理的アプローチ(2) 規範倫理学のアプローチ	単著	2014年9月	「生命倫理を研究するとは—“生命倫理学”の論文の書き方」平成24年度三菱財団人文科学助成 研究成果報告書(代表:岩江荘介)		27-44頁	無
91	堀田義太郎	差別の規範理論—差別の悪の根拠に関する検討	単著	2014年10月	南山大学社会倫理研究所、社会と倫理、29号		93-109頁	無

92	堀田義太郎	シンポジウムのまとめ—— (シンポジウム 医療のグロー バル化：臓器移植・生殖補 助医療・臨床試験)	共著	2014年11月	日本医学哲学倫理学会、医学 哲学・医学倫理、32号	江口聡	80-82頁	無
93	堀田義太郎	キャンパス・ヘイトスピーチ 規制と「観点中立性」(1)—— 大学の役割と表現の目的	単著	2015年1月	図書新聞、3189号		2頁	無
94	堀田義太郎	キャンパス・ヘイトスピーチ 規制と「観点中立性」(2)—— 平等理念と表現	単著	2015年1月	図書新聞、3191号		8頁	無
95	加藤有希子	「色彩療法オーラソーマ参与 観察2014年8月、いかがわし さと常人性のはざままで」	単著	2015年3月	『気の宇宙論・身体論 musica mundane』、埼玉大学教養学 部、リベラル・アーツ叢書6、 埼玉大学教養学部・文化科学 研究科	外山紀久子 編	67-98	無
96	加藤有希子	「ポジティブじゃなきやだめ なのか?——積極思考の功罪 と現代資本主義の信仰」	単著	2015年3月	立命館大学生存学研究センタ ー編『生存学』、Vol.8		263-276	有
97	櫻井浩子	女性IT技術者養の育成を目指 して—enPiT女性部会WiTの 活動を中心に—	共著	2014年9月	日本ソフトウェア科学会、『日 本ソフトウェア科学会第31 回大会講演論文集』	森本千佳 子・渡辺知 恵美・木塚 あゆみ・永 瀬美穂・中 島明日香	Web	無
98	櫻井浩子	enPiTにおける教育効果測定 の実践と評価	共著	2014年9月	日本ソフトウェア科学会、『日 本ソフトウェア科学会第31 回大会講演論文集』	山本雅基・ 小林隆志・ 宮地充子・ 奥野拓・ 糸野文洋・ 海上智昭・ 春名修介・ 井上克郎	Web	無
99	櫻井浩子	人文社会学専攻大学院生のキ ャリア選択に関する一考察	単著	2014年9月	日本キャリアデザイン学会、 『キャリアデザイン研究』、 10号	なし	147-156	有
100	櫻井浩子	無侵襲的出生前遺伝学的検査 における遺伝カウンセリング ：18トリソミーの場合	単著	2014年10月	日本生命倫理学会、『生命倫 理』、通巻25号	なし	42-51	有
101	櫻井浩子	enPiTにおける教育効果測定 の実践と評価	共著	2015年1月	日本ソフトウェア科学会、『コ ンピューターソフトウェア』、 32巻1号	山本雅基・ 小林隆志・ 宮地充子・ 奥野拓・ 糸野文洋・ 海上智昭・ 春名修介・ 井上克郎	213-219	有
102	櫻井浩子	新生児医療における医学的無 益性に関する提言	共著	2015年3月	日本臨床倫理学会、『臨床倫 理』、3号	加藤太喜子 ・加部一彦	7-15	有
103	長谷川唯	「コミュニケーション支援の 可能性——スイッチから解き ほぐす関係性」	単著	2015年3月3 日	『日本ALS協会近畿プロッ ク会報』、78号、		pp. 1-12	無
104	長谷川唯	「精神科病棟における職員の 患者に対する暴力の実体と構 造」	単著	2014年5月 31日	『病院・地域精神医学』、56(3)		pp.223-2 25	無
105	長谷川唯	「医療観察法の事例報告のさ れ方の検討(1)」	共著	2014年5月 31日	『病院・地域精神医学』、56(3)	桐原尚之	pp.220-2 22	無
106	長谷川唯	「『精神病』者運動家の個人 史(3巻)」	共著	2015年1月	『立命館大学生存学研究セン ター』	桐原尚之・ 白田幸治・ 安原 荘		
107	渋谷光美	ベトナムにおける介護事情に 関する考察——仏教寺の介護者 と枯葉剤被災者家族への聞き 取り調査を通じて	単著	2015年3月	『羽衣国際大学人間生活学部 紀要』Vol.10、羽衣国際大学 人間生活学部紀要編集委員会	無し	pp. 13 — 24	無
108	番匠健一	「映画『家族』から見た高度 経済成長」	単著	2014年10月	『戦後史再考』、平凡社		182-199	無

109	番匠健一	『家族』から『遙かなる山の呼び声』へ——山田洋次監督作品における引揚げ経験ともう一つの「戦後」の可能性	単著	2014年	国際日本学研究会、『文化／批評』、6号		34-63	有
110	山本崇記	まちづくりにおけるエリアマネジメント導入過程の研究——崇仁地域の事例から	単著	2014年4月	『世界人権問題研究センター紀要』第19号、(公財)世界人権問題研究センター		pp.133-160	有
111	能勢桂介	日系ブラジル人の低高校在学率とその要因——過去・現在・未来		2014年5月	『長野の子どもの白書』		pp.74 - 77	
112	能勢桂介	生活困窮者に関する自治体計画研究		2014年11月	松本大学		調査報告書および調査員・報告書19頁相当	
113	能勢桂介	リーマンショックがブラジル人と地域社会に突き付けたもの——準集住地域の困難さ		2015年3月	基盤研究(B)海外学術調査『東アジアにおける移民の編入モードと移民政策の動態的研究——日本・韓国・台湾の比較』報告書		pp.159-171	
114	浜田明範	アフリカにおける薬剤の流通と副作用：ガナ南部の農村地帯を事例として		2014年	『アフリカ・ドラッグ考：交錯する生産・取引・乱用・文化・統制』、晃洋書房	落合雄彦(編)	pp.169-190	無
115	浜田明範	'Payment and Milieu of Mutual-Aids: The National Health Insurance Scheme and Multiple Cares in Southern Ghana' In Mohasci Gergely (ed.)		2014年	Ecologies of Care: Innovations through Technologies, Collectives and the Senses. Readings in Multicultural Innovation, Vol. 40	Osaka: Doctoral Program for Multicultural Innovation.	pp.161-177	無
116	浜田明範	'Medical Technology as Cultural Interface' In Heung Wah Wong and Keiji Maegawa (eds.)		2014年	Revisiting Colonial & Post-Colonial: Anthropological Studies of Cultural Interface. Los Angeles: Bridge21.			無
117	浜田明範	書き換えの干渉：文脈作成としての政策、適応、ミステリ		2015年	『一橋社会科学』第7巻(別冊)		pp.125-150	無
118	一宮茂子	生体肝移植後終末期の医療的フォロー体制の重要性——ドナーの肯定感が否定感に変化した事例から		2015年2月	『立命館人間科学研究』No31		pp.1-17	
119	金政玉	インクルーシブ教育と合理的配慮	共著	2015年3月18日	「未来の保育と教育」東京未来大学保育・教育センター紀要 第2号	上田征三、及川留美、神部秀一他	P.51~60	査読有
120	安部彰	日本における体罰論の批判的精査とスポーツ体罰の倫理的検討	共著	2014年3月	『生存学』vol,8	櫻井悟史	pp.316-322	
121	牧昌子	「年金受給者の源泉徴収のみで課税「関係」が終了する(申告不要)制度の問題点		2014年5月25日	『総合社会福祉研究』43		研究ノート178-193	
122	青木千帆子	「学校でウンコをしたくなるたびに考えること」——合理的配慮を求める争いとつまずき	単著	2015年3月	『解放社会学研究』28		pp.9-26	有
123	利光恵子	着床前スクリーニングの日本への導入		2015年3月	現代書館、『季刊福祉労働』、146巻		pp.127-132.	
124	利光恵子	日本における障害を理由とした強制不妊手術の実態		2014年8月	佐々木千津子追悼文集編集委員会、『佐々木千津子追悼文集ほおじやおて』	佐々木千津子追悼文集編集委員会	pp.69-73.	
125	横田陽子	学会・研究団体のアーカイブズー日本学術会議を手がかりに	単著	2014年11月	『生物学史研究』第91号		pp.2	無

126	安田裕子	「ひらめき☆ときめきサイエンス「模擬法廷に来て裁判に参加してみよう」の実践および論考」	共著	2014年7月	立命館大学人間科学研究所、立命館人間科学研究、30	山崎優子・サトウタツヤ・稲葉光行・斎藤進也・徳永留美・上村晃弘・木戸彩恵・若林宏輔・福田茉莉・滑田明暢・山田早紀・川本静香・中妻拓也・春日秀朗・神崎真実・中田友貴・山口慶江		有
127	安田裕子	「質的データをどう扱うかー質的研究の手ほどき」（『臨床心理職のための「研究論文の教室」ー研究論文の読み方・書き方ガイド』）	単著	2014年8月	金剛出版、臨床心理学増刊、6	森岡正芳・大山泰宏（編）	94-100	無
128	安田裕子	「法と心理学会第14回大会ワークショップ 犯罪被害者をとりまく問題ー臨床心理学、法社会学、法心理学からの検討」	共著	2014年11月	法と心理学会、法と心理、14・1	林久美子・佐伯昌彦・山崎優子・福井厚・綿村英一郎	56-62	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	立岩真也	病・障害の諸相、そしてなおすこと・補うこと・委ねること	2014年11月	障害学国際セミナー 2014	
2	井上彰	Rawlsian Contractualism and the Cognitively Disabled	2014年5月	International Conference: Social Contract Theory. Past, Present, and Future	
3	井上彰	運の平等と個人の責任	2014年7月	2014年度第1回共生社会経済研究会	
4	井上彰	On Parfitian Prioritarianism and the Separateness of Persons	2014年8月	13th Conference of International Society for Utilitarian Studies	
5	井上彰	On Institutional Luck Egalitarianism	2014年11月	The 12th Asia Pacific Conference	
6	小川さやか	The Unionization of Street Traders: The Riots and Politics of the Street in Tanzania	2014年5月	International Union of Anthropological and Ethnological Science (IUAES)	
7	小川さやか	仕事は仕事のダイナミズムー中国ーアフリカ間の模造品/インフォーマル交易	2014年5月	大阪北ロータリークラブ	
8	小川さやか	若手企画/パネル「労働文化と文化労働ーその緊張関係を問う」	2014年5月	関西社会学会	
9	小川さやか	路上空間は誰のもの？	2014年6月	阪神シニアカレッジ	
10	小川さやか	模造品の増殖をめぐる複ゲーム状況ーエージェント研究の展望と可能性	2014年7月	民博共同研究会『エージェントの定位と作用』（代表：杉島敬志）	
11	小川さやか	もう一つのチャイニーズドリームー中国ーアフリカ間の模造品交易	2014年10月	第10回MUC L講演会	
12	小川さやか	タンザニアのたくましい路上商人	2014年12月	高大連携事業	
13	サトウタツヤ	The history of Forensic psychology research in Japan :1900-1945. , China University of Political Science and Law, China, 18th, OCT., 2014	2014年10月	8th East Asian Law and Psychology Conference	
14	千葉雅也	「ポスト構造主義以後」の観点から情報社会を考察する	2014年6月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所オープンハウス 2014	

15	千葉雅也	Desert Island and “Friday” : An Approach to the Problem of Alterity in Deleuze	2014年6月	The 2nd International Deleuze Studies in Asia Conference (Osaka)	
16	千葉雅也	動きすぎではいけないードゥルーズ哲学案内	2014年9月	朝日カルチャーセンター京都	
17	千葉雅也	強度・空間・時間	2014年10月	第37回日本精神病理学会シンポジウム「強度の精神病理」	
18	千葉雅也	文化現象としての思弁的実在論 (序説)	2015年1月	第18回新潟哲学思想セミナー	
19	千葉雅也	意味をもちすぎない切断	2015年1月	立命館大学大学院先端総合学術研究科主宰ワークショップ「踏みとどまる思考——『動きすぎではいけない』を読む」(山口尚による発表「非意味の意味の可能性——『動きすぎではいけない』への応答」への応答)	
20	中村正	Community Support through “East Japan Family Support Project”	2014年5月	21th IFP World Congress of Psychotherapy	
21	西成彦	日本文学の国境と辺境 (講演)	2014年5月	ワルシャワ大学日本学科	
22	松原洋子	日本における出生前スクリーニング検査ガバナンスの課題	2014年5月	日本科学史学会第61回年会	
23	松原洋子	生命倫理学と科学史—日本優生学史の自律性と批判性をめぐって	2014年6月	ワークショップ「生命倫理学の歴史を語ること、その陥穽」	
24	松原洋子	全体コメント	2015年2月	出生をめぐる知/技術の編成	
25	松原洋子	指定発言	2015年3月	シンポジウム「中村禎里と冷戦期日本の生物学史研究」	
26	村上潔	Anarcha-feminism による disability/impairment アプローチの運動論的可能性	2014年11月	障害学国際セミナー 2014	
27	村上潔	母子世帯の子育ての困難をめぐる重層的要因の検証	2015年1月	立命館大学人間科学研究所 2014年度年次総会ポスターセッション	堅田香緒里・村上慎司・橋口昌治
28	望月昭	臨床を「人称」から考える—「二人称の科学」は成立するのか?	2014年11月	対人援助学会第6年次大会	武藤崇 他
29	望月昭	障害のある児童・生徒の継続的支援のための情報共有の仕組みについて	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会	中鹿直樹
30	望月昭	トークンシステムを用いた家庭内の片付け行動の促進	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会	滑田明暢・田村彩佳
31	望月昭	疑似就労場面における「仲間を教える」役割設定が高等部生徒の行動におよぼす効果	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会	小島遼・吉尾玲美・水野しおり・立花周太・渡辺舞・中妻拓也・中鹿直樹
32	望月茂徳	介護における偶発的なコミュニケーションと インタラクティブデバイスの可能性について	2014年8月	第7回ポスト未踏談話会	
33	望月茂徳	TLOD TextBook : 階層構造と Semantic Zoom を利用したデジタル教科書	2014年9月	エンタテインメントコンピューティング 2014	武田 港, 川村 健一郎, 稲見 昌彦
34	望月茂徳	MR-Cyborg Soldiers 2: 観客・プレイヤー協調型複合現実感ゲーム	2014年9月	エンタテインメントコンピューティング 2014	堀田亮介, 大島登志一
35	望月茂徳	観客参加を重視した複合現実型エンタテインメントの研究	2014年9月	第19回日本バーチャルリアリティ学会	堀田亮介, 大島登志一
36	望月茂徳	通所介護事業所におけるインタラクティブ・デバイスの実践	2014年11月	アートミーツケア学会 2014年度大会	高垣 直人,
37	望月茂徳	身体的関わりへの技術からのアプローチ	2014年11月	アートミーツケア学会 2014年度大会	藤波努, 西川勝,
38	望月茂徳	通所介護事業所における黒電話型デバイスの実践	2015年3月	インタラクション 2015	高垣 直人, 鈴木 岳海
39	望月茂徳	MR-Cyborg Soldiers 2: 観客・プレイヤー協調型複合現実感ゲーム	2015年3月	インタラクション 2015	堀田亮介, 大島登志一
40	渡辺克典	ヘイト・スピーチにおける包摂/排除の基礎理論研究	2015年1月	人間科学研究所年次総会 (「インクルーシブ社会に向けた支援の<学>実<環>型研究」プロジェクト公開研究会)	堀田義太郎・安部彰
41	渡辺克典	矢吹文敏著『ねじれた輪ゴム』を読む—山形から京都へ、自立生活運動の軌跡を考える	2015年3月	関西社会学会若手企画部会 第5回事前研究会	

42	箱田徹	ミシェル・フーコーの内戦論——歴史— 政治的主権批判の可能性をさぐる	2014年11月	日本社会学会大会(神戸大学)	
43	箱田徹	Foucault's Counter-Theory of Sovereignty	2014年12月	Engaging Foucault, Institute for Philosophy and Social Theory, Belgrade University.	
44	堀田義太郎	社会関係の平等主義の射程	2014年10月6 日	日本倫理学会、一橋大学	
45	堀田義太郎	ヘイトスピーチ・差別・マイノリティ	2014年10月 26日	「女性・戦争・人権」学会、同志社大学	
46	堀田義太郎	ヘイトスピーチにおける包摂/排除の基 礎理論研究	2015年1月17 日	「インクルーシブ社会に向けた支援のく 学=実>連環型研究」プロジェクト公開研 究会(立命館大学人間科学研究所・私立大 学戦略的研究基盤形成支援事業)、立命館 大学	渡辺克典・安部彰
47	櫻井浩子	Student Assessment Method of PBL: Case of "Education Network for Practical Information Technologies" in Japan	2014年8月	International Conference on Education, psychology and social sciences, Taipei	なし
48	櫻井浩子	女性 IT 技術者養の育成を目指して— enPiT 女性部会 WiT の活動を中心に—	2014年9月	日本ソフトウェア科学会第31回大会、名 古屋大学	森本千佳子・渡辺知恵 美・木塚あゆみ・永瀬 美穂・中島明日香
49	櫻井浩子	enPiT における教育効果測定の実践と評 価	2014年9月	日本ソフトウェア科学会第31回大会、名 古屋大学	山本雅基・小林隆志・ 宮地充子・奥野拓・糸 野文洋・海上智昭・春 名修介・井上克郎
50	櫻井浩子	プロジェクト型学習の評価——「分野・ 地域を越えた実践の情報教育協働ネット ワーク」の事例から	2014年9月	日本キャリアデザイン学会第11回研究大 会、東京家政大学	なし
51	中倉智徳	「浸透しあう内部としての社会——ガブ リエル・タルドにおけるネオ・モナドロ ジーへの行程」	2014年9月	日仏哲学会2014秋季大会シンポジウム「モ ナドロロジーの哲学」、東京大学駒場キャン パス	
52	中倉智徳	「イノベーションと社会学——戦間期ア メリカにおける発明の社会学を中心に」	2014年9月	科学社会学会第三回大会 中山茂メモリ アル・セッション 革新・批判・風評、東 京大学本郷キャンパス	
53	長谷川唯	「スティグマを負わない健全者の障害学 ——合理化される主体の条件」	2014年11月8 日	第11回障害学会大会、沖縄国際大学	
54	長谷川唯	「精神科病棟における職員による精神的 暴力の実態——専門性が暴力を合理化す る過程」	2014年11月1 日	第57回日本病院・地域精神医学会大会、 仙台国際センター	
55	長谷川唯	「社会参加を規定するインパアメントと しての身体——ALS の身体にあては められる生活」	2014年8月29 日	第19回日本難病看護学会学術集会、広島 国際大学	
56	長谷川唯	「見守り介護をめぐる問題——ALS の 人の生活から」	2014年6月28 日	第11回福祉社会学会大会、東洋大学白山 キャンパス	
57	長谷川唯	「未来予測を根拠とした介入の失考—— 本人と他人の葛藤場面から」	2015年3月25 日	2014年度国際コンファレンス「カタストロ フィと正義」忍び寄るカタストロフィ—— その多様性と遍在性、立命館大学	桐原尚之
58	長谷川唯	「治らないということの問題における医 学モデルと社会モデルの違い——ALS の人の生活から」	2014年11月 20日	障害学国際研究セミナー2014、イルムセン ター(ソウル市)	
59	渋谷光美	Community Care Trends and the Quality of Care in the Philippines	2014.6	アジア学術会議、 14th Science Council of Asia、 International Conference Kuala Lumpur 2014、マレーシア	無し
40	渋谷光美	フィリピンの高齢者ケアに関する一考察 ——ナースিংホームのケアワーカーへ のアンケート調査を踏まえて	2014.10	第2回介護福祉学会大会	無し
41	渋谷光美	韓国の高齢者介護の特性に関する考察 ——福祉施設サービスを通じて	2014.11	障害学国際セミナー2014 韓国	無し
42	番匠健一	「山田洋次作品における戦後北海道—— 『家族』とその後」	2014年8月	国際日本学研究会、南山大学	

43	番匠健一	「国家イデオロギー装置としての大学—そこで研究・教育するということ」	2014年10月	立命館大学国際言語文化研究所連続企画「西川長夫 業績とその批判的検討」第2回、立命館大学	
44	山本崇記	「同和地区」におけるまちづくりの現状と課題—エリアマネジメント導入過程を事例に	2014年5月	地域社会学会第39回大会、早稲田大学	
45	山本崇記	A Study about Attitudes for Social Discrimination of Yakuza and Minority Group from Interview Data	2014年6月	アジア犯罪社会学会、大阪商業大学	
46	浜田明範	'Payment and Milieu of Mutual-Aids: The National Health Insurance Scheme and Multiple Cares in Southern Ghana',	2014年5月	The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter-Congress 2014, Makuhari-Messe, Japan.	
47	浜田明範	「環境の書き換え：ガーナ南部における結核と複数の統治」	2014年5月	『京都市人類学研究会』、京都大学	
48	浜田明範	「再分配研究の射程について」	2015年1月	『現代人類学研究会』、東京大学	
49	新山智基	顧みられない熱帯病と医療支援の実態：西アフリカの事例	2014年11月	日本アフリカ学会関西支部 2014年度第1回例会、神戸大学	
50	Tomoki Niyama,	Clinical Education Program for Physiotherapists in Togo, 2012 and 2013: Enhancing Postoperative Care for BU Patients	March 2015	WHO Meeting on Buruli ulcer Control and Research WHO Headquarters, Geneva, Switzerland	Hideki Koeda, Kazuyuki Fukunishi, Tetsuya Fujikura, Susumu Naruse, Yuki Shimomura
51	萩原三義	住み続けられる地域をつくるために	2015年2月	京都府職労 自治研修会、京都府庁 福利厚生センター	中村貴子、今西静男他
52	萩原三義	認知症を豊かに生きるための認知症カフェから広がる多角的アプローチ	2015年3月	京都地域包括ケア総合交付金事業効果・検証発表会、京都府医師会館	青木景子、杉浦晴美
53	小西真理子	ケアの倫理に内在する自立主義—共依存概念を媒介にして	2014年10月5日	第65回日本倫理学会、一橋大学	
54	小西真理子	"Education for Young Couples or Governmentality?: Japanese Policy for love relationship related to Domestic Violence," Reconceptualizing Diversity Engaging with Histories, Theories, Practices, and Discursive Strategies in Global Contexts	Canada, 29 October, 2014	Hyatt Regency in Toronto, Toronto, Canada	
55	安部彰	ヘイトスピーチにおける包摂/排除の基礎理論研究	2014年1月17日	立命館大学人間科学研究所 2014年度年次総会、立命館大学	渡辺克則、堀田義太郎
56	利光恵子	戦後日本における障害者への強制不妊手術に関する研究	2014年10月	第26回日本生命倫理学会年次大会、浜松アクトシティコンgresセンター	
57	横田陽子	日本学術会議放射線影響調査特別委員会について	2014年7月	日本科学史学会生物学史分科会・夏の学校(仙台)	
58	安田裕子	コミュニティ心理学とTEMの出会い—その出会いは幸福な経路をたどるのか	2014年6月	日本コミュニティ心理学会第17回大会(研究委員会企画シンポジウム)、立命館大学	サトウタツヤ・三枝将史・中島希
59	Yasuda, Y.	Understanding Compositionwork from the perspective of TEA: Trajectory Equifinality Approach (Applying Compositionwork to qualitative research about grasping experiences of an infertile woman focusing Bifurcation Point (BFP))	2014年8月	The 8th International Conference on the Dialogical Self (Symposia), The Hague University of Applied Sciences, The Hague, The Netherlands	Sato, T., & Nameda, A.
60	安田裕子	第二言語の学習と教育はいかになされるか?—社会文化的文脈と時間的プロセスのなかで達成される自己変容への着目	2014年9月	日本心理学会第78回大会(公募シンポジウム)、同志社大学	北出慶子・田一葦・上川多恵子・サトウタツヤ・山田人士
61	安田裕子	時間と状況のなかでパーソナリティを捉えるTEA(複線経路・等至性アプローチ)—実践的方法論としての可能性の拡がり	2014年10月	日本パーソナリティ心理学会第23回大会(自主企画シンポジウム)、山梨大学	三田地真実・荒川歩・松本玲子・豊田香・田代裕一朗

62	安田裕子	複線径路等至性モデル (TEM) の実践と展開—『ワードマップ 複線径路等至性アプローチ (TEA)』刊行に向けて	2014年10月	日本質的心理学会第11回大会 (シンポジウム) . 松山大学	福田茉莉・豊田香・鈴木美枝子・滑田明暢・能智正博・塩浦暲
63	安田裕子	児童期の性的虐待被害とその回復をめぐる法と心理	2014年10月	法と心理学会第14回大会 (ワークショップ) . 関西学院大学	松本克美・村本邦子・金成恩・後藤弘子
64	安田裕子	分岐点での関わり・援助を考える—ボーダーを超えて、TEA で捉えられる、人のライフの変容と維持	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会 (企画ワークショップ) . 立命館大学	サトウタツヤ・伊東美智子・和田美香・北出慶子
65	安田裕子	保育者同士の対話を促すツールとしての複線径路・等至性アプローチ (TEA) —保育カンファレンスの新たなデザイン	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会 (ラウンドテーブル) . 東京大学	中坪史典・香曾我部琢・境愛一郎・刑部育子
66	安田裕子	成人のアイデンティティの変容と発達を示す社会的支援の介入のタイミングの検討—質的研究法 TEA を分析の枠組みとして	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会 (ラウンドテーブル) . 東京大学	豊田香・勝谷紀子・森本真由美・曾山いづみ

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	アフリカセミナー7 モザンビークに向けられる関心: 日本向け食料・エネルギー供給地としての期待?	衣笠キャンパス	2014年4月	15	
2	《ジェンダー論セミナー①》ジェンダー生成の場としての宝塚歌劇	衣笠キャンパス	2014年4月	65	
3	国際セミナー「ナラティブ心理学と教育 (1) —いじめ予防の技法」	衣笠キャンパス	2014年5月	30	日本発達心理学会ナラティブと質的研究分科会
4	『現代思想』2014年5月号 (特集: 精神医療のリアル DSM-5時代の精神の<病>) を読む	衣笠キャンパス	2014年5月	10	
5	アフリカセミナー8 誰のための公衆衛生か?	衣笠キャンパス	2014年5月	40	
6	連続セミナー「社会/障害」第1回「障害者権利条約の成り立ちと位置づけ」	朱雀キャンパス	2014年5月	25	人間科学研究所
7	『卵子提供—美談の裏側』上映会	衣笠キャンパス	2014年6月	40	
8	「精神科医 高岡 健 氏に聞く」	衣笠キャンパス	2014年6月	10	
9	国際セミナー「ナラティブ心理学と教育 (2) —子どもと若者のための多文化コミュニケーションの方法」	衣笠キャンパス	2014年6月	25	日本発達心理学会ナラティブと質的研究分科会
10	田島明子編書 合同合評会	衣笠キャンパス	2014年6月	10	
11	連続セミナー「社会/障害」第2回「障害者権利条約と国内法整備」	朱雀キャンパス	2014年6月	15	人間科学研究所
12	アフリカセミナー9 「越境する障害者 村を創るハンセン病患者」	衣笠キャンパス	2014年6月	25	
13	ワークショップ「生命倫理学の歴史を語ること、その陥穽」	衣笠キャンパス	2014年6月	30	
14	アフリカセミナー10 「紛争後社会の和解政策を再考する」	衣笠キャンパス	2014年7月	15	
15	連続セミナー「社会/障害」第3回「害者差別解消法の仕組み」	朱雀キャンパス	2014年7月	20	人間科学研究所
16	「精神分析と倫理」研究会①—「発達障害」をめぐる—	衣笠キャンパス	2014年7月	35	人間科学研究所
17	国際学術企画 生存の社会学	衣笠キャンパス	2014年7月	50	
18	国際ワークショップ敗戦/引揚げ/性暴力:『竹林はるか遠く』ブームを問い直す	朱雀キャンパス	2014年7月	60	国際言語文化研究所ジェンダー研究会
19	「生存学と文学」研究会・公開討論会「文学と盲目性」第二回	衣笠キャンパス	2014年9月	25	
20	若手強化「規範×秩序」研究会 特別企画「デモクラシーと福祉の規範理論」	衣笠キャンパス	2014年9月	30	
21	連続セミナー「障害/社会」第4回「障害者権利条約の国内の実施と障害者政策委員会」	朱雀キャンパス	2014年10月	20	人間科学研究所
22	雑誌『生存学』第8号「特集: 看護」座談会	朱雀キャンパス	2014年10月	15	
23	現代社会エスノグラフィ研究会 第4回公開研究会	衣笠キャンパス	2014年10月	30	

24	連続セミナー「障害／社会」 第5回「中国における障害者権利条約をめぐる取組み」	衣笠キャンパス	2014年10月	15	人間科学研究所
25	フェミニズム研究会 第4回公開研究会 「境界を揺るがす映画『トークバック』上映会」	衣笠キャンパス	2014年10月	20	国際言語文化研究所ジェンダー研究会
26	リーズ大学・障害学研究センター 国際研究交流	衣笠キャンパス	2014年11月	15	
27	リースマンのナラティブ分析に関する文献の読合わせ会①	衣笠キャンパス	2014年11月	25	
28	障害学国際セミナー2014	韓国ソウル市	2014年11月	50	韓国障害学フォーラム、人間科学研究所
29	《ジェンダー論セミナー④》映画「何を怖れる」上映&トークセッション	衣笠キャンパス	2014年11月	30	認定特定非営利活動法人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)
30	ナラティブと質的研究会第7回「ブルーナーと人間を見る眼」	衣笠キャンパス	2014年12月	25	
31	「精神分析と倫理」研究会②—「発達障害」論の深化のために—	衣笠キャンパス	2014年12月	30	人間科学研究所
32	若手強化「規範×秩序」研究会 特別企画「健康と平等の規範理論」	衣笠キャンパス	2014年12月	30	
33	研究会「Population Ethics をめぐって」	衣笠キャンパス	2015年1月		
34	研究会「身体とテクノロジー:アンドロイドは身体と老いの夢を見るか」	朱雀キャンパス	2015年1月	15	
35	リースマンのナラティブ分析に関する文献の読合わせ会②	衣笠キャンパス	2015年1月	25	
36	「生存学と文学」研究会・公開討論会・「SFは生存をどう描いてきたか—ロシア・東欧SF編」	衣笠キャンパス	2015年2月	20	
37	UTCP-L2・生存学研究センター合同シンポジウム「出生をめぐる知/技術の編成」	東京大学駒場キャンパス	2015年2月	50	東京大学大学院総合文化研究科附属 共生のための国際哲学研究センター(UTCP) 上廣共生哲学寄附研究部門 L2 プロジェクト「共生のための障害の哲学」
38	出生をめぐる倫理研究会 公開研究会 「日本における不妊カウンセリングの現状と課題」	衣笠キャンパス	2015年2月	30	
39	「精神分析と倫理」研究会③—「発達障害」:社会と臨床のつなぎめ	衣笠キャンパス	2015年3月	30	
40	『日本の血友病者の歴史—他者接待・社会参加・抗議運動』合評会	キャンパスプラザ京都	2015年3月		
41	『沖縄闘争の時代 1960/1970—分断を乗り越える思想と実践』合評会	京都市地域・多文化交流ネットワークサロン	2015年3月		
42	若い研究会企画「ローカルな歴史を知っておくこと」	衣笠キャンパス	2015年3月	30	
43	出生をめぐる倫理研究会 公開研究会 「出生をめぐる倫理と里親養育」	衣笠キャンパス	2015年3月	35	
44	マイノリティ研究会企画「少数派の教育/大学院の教育」	衣笠キャンパス	2015年3月	20	
45	ワークショップ「終末期医療における治療方針—決定要因と共同意思決定の可能性」	浜松医科大学	2014年10月	50名	第26回日本生命倫理学会年次大会
46	ワークショップ「ダイバーシティの実現化を目指して—女性IT技術者の活躍について考える」	京都大学	2015年3月	30名	情報処理学会第77回全国大会

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	松原洋子	『卵子提供-美談の裏側』上映会(対談)	立命館大学衣笠キャンパス	2014年6月7日
2	松原洋子	障害者差別解消法の高等教育機関における障害学生支援への影響—図書館資料のテストデータ提供を中心に	大学図書館問題研究会第45回全国大会オープン・シンポジウム「障害者差別解消法の高等教育機関における障害学生支援への影響と、著作権法37条ガイドライン」	2014年8月25日
3	松原洋子	出生前診断、何か問題か—技術・倫理・社会	立命館大阪オフィス講座	2014年12月4日

4	松原洋子	書籍の電子化と 図書館のアクセシビリティ向上	平成 26 年度大阪府図書館司書セミナー	2014 年 12 月 9 日
5	松原洋子	図書館のアクセシビリティ向上-電子書籍の活用を中心に	平成 26 年度兵庫県図書館協会第 2 回研究集会	2015 年 2 月 26 日
6	松原洋子	選別される「いのち」-優生学と人間社会	平成 26 年度ジェンダーで社会を考える講座 (新潟市男女共同参画推進センター)	2015 年 3 月 1 日
7	望月茂徳	インタラクティブ・デバイスおよび遊具の制作、展示協力 こども広場「もっとからだでおはなししよう」 2014/7/26 高槻現代劇場 ダンス講師：砂連尾理、音響：大畑 省吾、 インタラクティブデバイス・遊具制作：望月茂徳、石川紗 季、棚尾絵里依、馬場三紗子、森田成美、内藤綜一、山下 裕英	高槻現代劇場	2014 年 7 月 26 日
8	望月茂徳	みんなでつくろう！紙コップ ㊤, 石川紗季、棚尾 絵里依、 望月茂徳	ワークショップコレクション 10, 青山学院 大学青山キャンパス	2014 年 8 月 29 日
9	望月茂徳	スーパーマーケット・オーケストラ ワークショップ講師、 インタラクティブ・デバイス開発：望月茂徳、石川紗季、 馬場三紗子	楽×学 2014～私の「やる！」を興すために～、 静岡文化芸術大学	2014 年 11 月 29 日
10	櫻井浩子	シンポジウム「再考：重篤な疾患を持つ新生児の家族と医 療スタッフの話し合いのガイドライン」	第 59 回日本末熟児新生児学会学術集会、ひ めぎんホール	2014 年 11 月
11	櫻井浩子	18 トリソミー 国内初解説書 県内外医療者と患者家族 会協力	信濃毎日新聞	2014 年 12 月
12	櫻井浩子	家族と過ごした 6 日間～小さな命をめぐる選択～	NHK 特報首都圏	2015 年 1 月
13	櫻井浩子	知ってほしい「1 8 トリソミー」 難病と向き合い子供の 生きる力に寄り添う 患者家族らの団体が出版	産経新聞	2015 年 2 月
14	斉藤龍一郎	同じ世界を生きぬこうとする人々とつながる アフリカに関わる取り組みと生存学のクロスオーバーから	生存学研究センター報告 23 『アフリカの 病・医療・障害の現場から——アフリカセミ ナー『目の前のアフリカ』での活動を通じて』	
15	山本崇記	コメント	シンポジウム「生存学の社会学」、立命館大 学生存学研究センター	2014 年 7 月 20 日
16	山本崇記	同和問題の現在とこれから——気づきから行動へ	京都府人権教育指導者研修会Ⅱ、京都府教育 委員会	2014 年 11 月 18 日
17	山本崇記	部落問題とヘイトスピーチ	外国人の人権を考えるシンポジウム——ヘ イトスピーチをめぐる（人権問題シンポジ ウム）、（公財）世界人権問題研究センター	2015 年 2 月 8 日
18	山本崇記	同和問題の今日的課題	京都府人権問題特別研修、京都府職員研修・ 研究支援センター	2015 年 2 月 16 日
19	新山智基	国際ボランティア活動を考える：神戸国際大学ブルーリ潰 瘍問題支援プロジェクト (Project SCOBU) の取り組み	神戸国際大学 特別学習会 (高校生対象)	2014 年 5 月
20	青木千帆子	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律につい て	第 110 回日本精神神経学会学術総会	2014 年 6 月 24 日
21	青木千帆子	2014 年電子書籍フォーマットのアクセシビリティ対応状 況に関する実態調査	arsvi.com	2015 年 2 月
22	利光恵子	講演「知ろう・学ぼう新型出生前検査について」	先天性四肢障害児父母の会第 40 回全国総会	2014 年 7 月 26 日
23	利光恵子	講演「出生前診断について考える」	国際人権大学院大学 (夜間) の実現をめざす 大阪府民会議プレ講座「未来社会と人権」コ ース	2014 年 11 月 20 日
24	安田裕子	研究資金獲得支援セミナー第 1 回 での講師「学振特別研 究員申請セミナー 申請書作成のポイント」	立命館大学 (衣笠キャンパス)	2014 年 4 月 18 日
25	安田裕子	研究資金獲得支援セミナー第 1 回 での講師「学振特別研 究員申請セミナー 申請書作成のポイント」	立命館大学 (BKC)	2014 年 4 月 22 日
26	安田裕子	第 8 回 JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー 実務研修 での特別講演「不妊治療者の人生選択」	新大阪丸ビル新館	2014 年 5 月 17 日
27	安田裕子	2014 年度教育発達科学研究科 心理危機マネジメントコ ース特別企画第 2 回 TEM/TEA 研究会 in 名古屋大学「複線径 路等至性モデル/アプローチの臨床事例への適用をめぐ つて」での講演「複線径路等至性アプローチの臨床適用を 巡って」	名古屋大学	2014 年 5 月 31 日
28	安田裕子	TEM/TEA 研究会 (複線径路・等至性アプローチ) —文化と 言語、自己変容過程の分析— での講演「過程と発生を捉 える TEA」	立命館大学 (朱雀キャンパス)	2014 年 6 月 14 日
29	安田裕子	新学術領域研究「法と人間科学」主催 2014 年度 第 5 回 実 務家研修「子どものための司法面接と体験を語る子どもの	四天王寺大学サテライトキャンパス	2014 年 11 月 24 日

		心理」での講演「トラウマ体験のある子どもの心理とそのケア」		
30	安田裕子	元ポストドクに聞く大学教員へのキャリアパス&座談会②での講演「OGに聞く大学教員へのキャリアパス&参加者が考えるキャリアパス(座談会)」	立命館大学(衣笠キャンパス)	2014年12月9日
31	安田裕子	新学術領域研究「法と人間科学」主催 2014年度 第6回 実務家研修「子どものための司法面接と体験を語る子どもの心理」での講演「トラウマ体験のある子どもの心理とそのケア」	四天王寺大学サテライトキャンパス	2015年1月12日
32	安田裕子	第2回「TEM/TEAと言語」研究会での講演「過程と発生を捉える複線径路等至性アプローチ(TEA)」	立命館大学	2015年2月7日
33	安田裕子	日本発達心理学会第26回大会 チュートリアル・セミナー 新しい発達研究のための基礎講座 での講師「複線径路・等至性アプローチ(TEA)―過程と発生をとらえる」	日本発達心理学会第26回大会、東京大学.	2015年3月20日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	千葉雅也	表象文化論学会	学会賞(『動きすぎたはいけない』に対して)		2014年7月
2	山本崇記	日本都市社会学会	若手奨励賞(論文の部)	「都市下層における住民の主体形成の論理と構造―同和地区/スラムという分断にみる地域社会のリアリティ」『社会学評論』第249号、pp.2-18、有斐閣	2014年9月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	大谷いづみ	生命倫理学におけるモンスター概念の変遷とその役割―メタファーとしての奇形―	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	分担
2	小川さやか	中古品と非正規品の越境取引にみる現代アフリカの消費文化に関する研究	若手研究(B)	2012年4月	2016年3月	代表
3	サトウタツヤ	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年	2016年3月	代表
4	千葉雅也	2000年代フランスにおける「ポスト構造主義以後」の存在論とその国際的受容の研究	若手研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
5	中村正	虐待が生成する家族の相互作用と関係性の特性についての臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
6	西成彦	比較植民地文学研究の基盤整備	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
7	松原洋子	高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上: ICTによる図書館の活用	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
8	村上潔	「新日室労組主婦の会」の歩みの記録とその女性運動史的な分析	若手研究(B)	2013年4月	2015年3月	代表
9	望月茂徳	ケアとインタラクティブメディア―遊びから考える「あいだ」の創造―	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
10	渡辺克典	病・障害当事者による災害支援活動をめぐる組織間ネットワーク研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表
11	堀田義太郎	差別の規範理論	若手研究(B)	2014年4月	2016年3月	代表
12	堀田義太郎	文化・社会運動研究における『アイデンティティの政治』の再文脈化	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
13	山本崇記	マイノリティの居住と福祉の問題を解決する社会政策の形成とメカニズムに関する研究	研究活動スタート支援	2013年10月	2015年3月	代表
14	新山智基	顧みられない熱帯病と国際協力	研究成果公開促進費(学術図書)	2014年	2014年	
15	青木千帆子	書籍のアクセシビリティ向上のための対話とルールに関する研究	若手研究(B)	2014年4月	2016年3月	代表
16	安田裕子	ライフとキャリアの変容・維持過程の記述―臨床と教育に活かす質的研究法 TEM	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
17	安田裕子	治療的司法論の理論的展望と日本的展開―当事者主義司法の脱構築に関する学際的研究(研究代表者: 成城大学・指宿信)	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	小泉義之	現代精神保健福祉体制におけるジャック・ラカンの精神分析の倫理的射程		2014年4月	2015年3月	代表
2	サトウタツヤ	人生における不定状況からの移行と径路の探究—過程と発生を捉えるTEMの国際的展開	研究推進プログラム(科研費連動型)	2014年6月	2015年3月	代表
3	サトウタツヤ	新しい質的研究法・複線径路等至性モデル(TEM)の国際ネットワーク作り	研究の国際化推進プログラム	2014年4月	2015年3月	代表
4	松原洋子	米国における出産女性と出生児の離別に関する現代史研究		2014年4月	2015年3月	代表
5	村上潔	母子世帯の育児の困難をめぐる重層的要因の検証—大阪府における事例調査をもとに	全労済協会 2014年度公募委託調査研究	2014年12月	2015年12月	代表
6	望月茂徳	「遊び」のデザイン：社会問題の解決方法としての遊びの開発と実践	研究推進プログラム(若手研究)	2014年7月	2015年3月	代表
7	渡辺克典	関東大震災における障害者への集会的暴力研究	研究推進プログラム(若手研究)	2014年7月	2015年3月	代表
8	山本崇記	フィリピン系の子どもたちの未来を切り拓くグローバルな教育支援モデルの構築	トヨタ財団国際助成プログラム	2013年10月	2014年10月	分担
9	安田裕子	外国語学習者と教師の異文化接触を通じた成長過程の社会文化的分析(研究代表者：立命館大学・北出慶子)	立命館大学研究推進プログラム(基盤研究)	2014年4月	2015年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1								

以上